

「XP」サポート残り1年、OS切り替え支援

日本マイクロソフトは9日、パソコン用の基本ソフト(OS)「ウィンドウズXP」のサポート期間が残り1年となったことを受け、最新版のOSに切り替えるサービスなどを拡充すると発表した。

2001年10月に発売されたXPは、販売期間が約5年と長かったことから、後継OSの「ビスタ」「7」「8」の発売後も移行が進んでいない。XPは、昨年11月時点で企業向けパソコンの約4割、国内のパソコン全体で2589万台で使用されているが、マイクロソフトは14年4月9日にサポートを終了する方針だ。

サポート終了後は、プログラムに欠陥が見つかって修正プログラムを提供しないため、ウイルスへの感染や不正なアクセスを受ける危険性が高まるという。